



宮農 NEWS



イチゴ栽培でハダニ類やうどんこ病、ハスモンヨトウなどの発生に十分注意し 防除に努めましょう

近年、ハダニ類は発生の多い状況が続いており、前年に被害の見られた圃場では、今年も十分な注意が必要です。さらにこれからは、うどんこ病や灰色かび病などの発生しやすくなる時期となり、直接、果実発病による減収を招きますので、常に発生に注意し、早期発見、早期防除に心がけてください。

今後、収穫期に入りますと、多忙のため防除が疎かになりがちですが、イチゴの病害虫は、増殖、拡散して、多発すると防除効果が十分に上がりにくくなってしまいますので、常に発生状況の確認と的確な防除に努めてください。

<ハダニ類、うどんこ病 防除のポイント>

- 1) 発生を見逃さないよう、葉裏や葉柄、果梗、果蕾などを丁寧に観察してください。
- 2) 発生を確認したら、初期のうちに薬剤防除を実施してください。この場合、葉裏や下葉にもよくかかるよう、株全体に丁寧に散布することが特に重要です。
- 3) 既に多発した場合には、罹病葉や葉柄、果梗、果実等の病部を摘み取ってから、薬剤散布を行ってください。
- 4) 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、気門封鎖剤を除く同一系統剤の連続散布は避けてください。
- 5) ミツバチや天敵を放飼の場合は、薬剤の影響等について、メーカー関係機関等から必ず指導を受けてください。

表1 イチゴ ハダニ類の主な防除薬剤（平成 29 年 11 月 15 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期／使用回数	ミツバチ※
コロマイト水和剤	2,000倍	収穫前日まで／2回以内	1日
カネマイトフロアブル	1,000～1,500倍	収穫前日まで／1回	○
スターマイトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで／2回以内	1日
マイトイコーネフロアブル	1,000倍	収穫前日まで／2回以内	1日
サンヨール	500倍	収穫前日まで／6回以内	○
粘着くん液剤（デンプン）	100倍	収穫前日まで／－	1日
エコピタ液剤（還元澱粉糖化物）	100倍	収穫前日まで／－	－

注1) 気門封鎖剤（粘着くん、エコピタ等）利用の注意点：①薬剤により、マルチ汚れや果実薬害を生じることがあるため、各薬剤の特性をよく確認する。②ハダニ類に直接かからないと効果がないため、株全体に丁寧に散布する。③ハダニ類成虫には有効だが、卵には十分な効果がないので、残った卵からふ化した成虫を防除するためには、5～7日間隔で数回散布する。

注2) 表1、2、3のミツバチ※は、ミツバチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針（平成29年版）より抜粋した。○は薬液が乾けば影響なし、その他は影響日数を記載していますが、天候、施設内の環境条件（温度、換気等）により日数が前後することがあります。なお、－は指針に記載なしです。

表2 イチゴ うどんこ病の主な防除薬剤（平成 29 年 11 月 15 日現在）

薬剤名	系統	希釈倍率	使用時期／使用回数	ミツバチ※
アフェットフロアブル	アニライド	2,000倍	収穫前日まで／3回以内	1日
ガッテン乳剤	－	5,000倍	収穫前日まで／2回以内	○
トリフミン水和剤	E B I	3,000～5,000倍	収穫前日まで／5回以内	1日
パンチョTF顆粒水和剤	アミドキシム+E B I	2,000倍	収穫前日まで／2回以内	○
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン	2,000～3,000倍	収穫前日まで／3回以内	1日
サンヨール	有機銅	500～1,000倍	収穫前日まで／6回以内	○
ジーファイン水和剤	炭酸水素塩+無機銅	750～1,000倍	収穫前日まで／－	○

※その他、被覆後には硫黄粒剤のくん煙処理が可能ですが、その際は専用の電機加熱式くん煙器を利用して下さい。

表3 イチゴ ハスモンヨトウの主な防除薬剤（平成 29 年 11 月 15 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期／使用回数	ミツバチ※
プレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで／4回以内	○
トルネードエースDF	2,000倍	収穫前日まで／2回以内	1日
フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫前日まで／2回以内	1日

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。

